

令和4年度第3回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和4年8月3日（水）18：00～19：20

【場 所】 浜益支所2F 会議室

【資 料】

- 1) 会議次第
- 2) 【報告事項】（仮称）浜益学園設立準備部会の検討状況について
- 3) 【協議事項】「高齢者に優しいまちづくり」に関する意見交換
- 4) 浜益冬のおんしん事業
- 5) 浜益web情報館「浜益宝庫」事業
- 6) 浜リハウス事業
- 7) 防災浜リユック事業

【出席者】8名（13名中）

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
会長	渡邊 隆之	○	委員	渡邊 真奈美		委員	水崎 理	○
副会長	佐藤 晃一	○	委員	阿部 ゆかり	○	委員	徳田 和之	○
委員	岡本 俊介		委員	木村 美幸		委員	柿岡 奈々絵	○
委員	久慈 貞子		委員	徳地 克実	○			
委員	鳴海 翔	○	委員	赤間 香子				

（支 所） 高橋支所長、開発市民福祉課長（併 浜益生涯学習課長）
 伊藤市民福祉課保健福祉担当課長（兼 はまます保育園長、浜益国保診療所庶務課長）
 市民福祉課保健福祉担当 小島保健師
 川村集落支援員

（本 庁） 生涯学習部 東総務企画課長

（事務局） 佐々木地域振興課長、佐藤（慎）主査

【傍聴者】 3名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - (1)（仮称）浜益学園設立準備部会の検討状況について
- 4 協議事項
 - (1)「高齢者に優しいまちづくり」に関する意見交換
- 5 その他
- 6 次回の開催日程について
- 7 閉 会

1 開 会

【事務局】

定刻となりましたので会議を始めます。ただ今から、令和4年度第3回浜益区地域協議会を開会いたします。はじめに、渡邊会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

【渡邊会長】

先週あたりから暑い日が続きまして、浜は海水浴客等で賑わいを見せております。また、ウニ漁も最盛期を迎えまして、本格的な夏の訪れとともに、浜益区にとっては最も活気のある季節を迎えております。しかしながら、一時減少傾向にありました新型コロナウイルス感染症が、感染力が強いオミクロン株B A 5に変わり、感染者数が急増しておりますことから、マスクの着用はもとより、手洗い、うがい、手指消毒等の更なる徹底に努めていただきたいと思います。

また、暑い日が続いております。マスクの着用等により熱中症のリスクが高まりますので、皆様には併せて、こまめな水分補給などご留意いただければと思います。

さて、今日の議題は報告事項として、「（仮称）浜益学園設立準備部会の検討状況について」と、協議事項として、前回に引き続きまして「高齢者に優しいまちづくり」であります。前回意見交換した内容について、事務局でまとめていただいておりますので、関係資料等も交えながら、具現化に向けて更に意見交換をしていきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

【事務局】

本日の会議は、出席委員が13名中8名出席しており、過半数に達しておりますので、会議が成立している事をご報告いたします。

3 報告事項

【渡邊会長】

会議次第に則りまして進めていきたいと思っております。報告事項、「（仮称）浜益学園設立準備部会の検討状況について」教育委員会の東課長から説明をお願いいたします。

【生涯学習部 東総務企画課長】

浜益学園設立準備部会の状況等について、ご説明をさせていただきます。

浜益区の学校につきましては、小、中学校、各1校ずつの現在の状況から、児童、生徒の減少等の課題を持っておりますので、この際、将来に向けては1つの学校に統一し、且つ、保育園も併設した中で、新しい教育・保育環境を作ろうという市の方針に基づいて、今検討を進めているところでございます。

これまで、地域の説明会、保護者説明会等を開催いたしまして、皆様からの様々な意見をいただいていたところです。そういった意見を踏まえながら、新しい学校、保育園の在り方を専門的に審議いただく会議ということで、CS（コミュニティースクール・学校運営協議会）の中に専門部会を設けさせていただきたく、教育委員会からCSに申し入れしたところ、学校の教職員の皆様をはじめ、PTAの皆様を含めて、ご了承いただくことができましたので、浜益学園設立準備部会の設立を、6月21日の第1回CS会議の中でご了承いただいて、部会を発足させていただいたところです。委員の構成につきましては、お配りの資料のとおりとなっております。保護者につきましては、小、中学校のPTA会長、それから、はまます保育園父母の会会長の3名の方に委員になっていただいております。また、学校関係者につきましては、浜益小、中学校の校長先生、教頭先生、はまます保育園の園長にもご参加を頂いているところです。また、学校支援推進員の方1名。地域関係者ということで、この協議会の中からも、渡邊会長、それから、川村集落支援員にもご参加を頂く中で進めているところです。

これまでの経緯になりますが、6月21日、CSの第1回会議の中で、この設立準備部会の設立をご了承いただいて、第1回の会議の中では、部会長の選出、それから準備部会の役割の説明、子どもアンケートの実施案等について説明をさせていただいたところです。

翌月の7月ですけれども、7月11日に本市における先行事例であります、義務教育学校の厚田学園に、委員の皆様と視察に行きまして、その夜に第2回の会議を開催しております。その中には、昨年4月のワークショップでいただいたご意見、それから、今年の1月に開催した保護者説明会でいただいたご意見、それらを、委員の皆様にご覧いただきワークショップ形式で取りまとめた作業をしております。また、具体的な子どもアンケートの案についても、この時に提示をいたしまして、ご了承をいただいております。

また、第3回の会議は、7月27日に開催いたしました。この間、7月20日、21日に子どもアンケートを実施しております。学校の先生方にもご協力いただきまして、40名の児童、生徒から、新しい学校についての思いをアンケートで回答をいただきました。アンケートの回答を踏まえまして、7月27日の第3回会議の中で、アンケート結果もワークショップ形式で分類分けをするという作業をしていただいております。

また、第4回の会議については、8月8日に開催予定で準備を進めております。その会議においては、学校をどんな風にするかという基本設計を7月に発注したところですが、その中に、地域、子どもたちからの、取り入れてほしい要望を提出する内容をまとめていきたいと考えているところです。

ちなみに、その基本設計の事業者ですが、株式会社 サン設計事務所というところが受注をいたしまして契約をしたところです。この事業者については、厚田学園の基本設計、実施設計をそれぞれ担った事業者ということで、似たような小規模校、増して保育園も加えるというような、同じ様な施設整備になりますので、そういった部分では、経験豊かな事業者であると認識をしているところです。8月8日にまとめた内容を、サン設計事務所に提出をするということで、事務を執り進めているところです。

では、どんな意見なのかという部分が資料の2枚目になりますけれども、様々な意見が出ております。教育の内容についてのご意見。或いは、建物についてのご意見など様々なものが出ています。

これをある程度、グループごとに分けて集約することによって、私たちもそれを見える化するということ。それから、皆様にお伝えしやすくするということ。そして、それが基本設計に反映する際にも説明しやすくなるということで、グループ分けをすることによって、わかりやすく整理をしていただいたというところになります。

これがワークショップで分類した内容になりますけれども、去年の4月のワークショップから始まって、保護者説明会で出た意見をすべて、グループごとに分類しています。見方なんですけれども、大きくまず左右に、左側が教育の内容等のソフト面。右側半分が建物等のハード面と整理をしています。今度は、上下はどのような区分けかという、上が主に子どもたちにとっての内容。そして、下の半分が地域というような区分けをして、大きく4つに区分をしたところです。これに、それぞれの会議で出た意見で、当てはまるものをそれぞれグループ分けをしたという作業になります。まず、その一番が、浜益ならではのテーマに沿った中で出ていると思われる意見についてこのように仕分けをしております。シートは全部で4つあるんですが、2つ目が学校や保育園本来の機能ということについていただいた意見。それを、同じ区分けの中で整理をしています。ハード面の意見が結構出てまして、子どもたちのことを地域の皆さん本当に考えていただいているというのが、仕分けをする中で大変よく分かる内容となっています。

3番目としては、学校や保育園。そもそもの機能以外の付帯機能って、どんな物をつけられるだろうというような事でいただいたご意見になっています。これも、見ていただくと、子どもたちのハード面。色々な制約がある中での整備ということで、みなさんご承知を頂いているとおりですので、逆にその中で色々な思いが強く出ていると思っています。

4つ目としては、これらに属さないその他の意見ということで、同じ様にまとめているところです。ご覧いただくとおり、地域色が出ると避難所機能という役割もありますので、そういったところにも関心が高いというのが、この作業で見えてきました。

現在、これら4つのシートをある程度区分けをして、更に絞り込んでまとめ、見える化したものが、二枚目の資料になります。区分けはそれぞれ同じです。見ていただくと、ハードの部分についての色々なアイデア等が出されているというのが、お知りいただけるかと思えます。

スケジュールを申し上げますと、今、基本設計を発注し、これから具体的な、様々な機能を盛り込んでいくということになりますので、できるだけ早く地域の意見を提出することによって、全てが反映できるかという、それは難しいというのは皆さんもお知りいただけるかと思いますが、出来るだけ早い段階で事業者に出すことによって、検討していただく時間を充分に取りたいということを考えているところです。

実際には、この状態で提出するわけではなく、これをベースにした中で、ハード面の子どもたちからの部分、地域からの部分ということで、その部分を基本設計の受注者には、別の形でまとめて提出をすることで考えています。それをまとめる作業が、8月8日の会議の際に、事務局のから原案を出させていただいて、それについて色々ご意見を頂いてブラッシュアップをしていきたいと考えているところです。

全体的なスケジュールは、今年が基本設計、来年が実施設計ということで、ベースになる設計が、

今年度1月末を目途に行うということですので、部会の皆さんにも、頻繁に会議にご参加いただいて、地域の皆さんのご意見等をしっかりとまとめていただいているということに、まず感謝を申し上げたいと思いますし、しっかりと設計の方に反映できるように取り組んでいきたいと考えております。既にご承知の方もいるかとは思いますが、部会の動きにつきましては、市のホームページ等でも情報提供して、皆さんに広くご覧いただきたいということで取り組んでおりますので、お時間のある時にはホームページを見ていただければと思います。いずれにいたしましても、時間の無い中、しっかりと取り組んで参りたいと思っておりますので、この協議会の中からも、なにかご意見等ありましたら、事務局のほうにお出しいただければありがたいと思います。

【渡邊会長】

ただいま教育委員会から説明がございましたけれども、設立準備部会の関係で、何かご質問やご意見等ございますでしょうか。

【川村集落支援員】

コミュニティスクールの会議の中に部会というような説明があったとおりですね、部会の長を任せております、川村でございます。ご覧いただいたとおり、6月21日にスタートを切ってから、7月11日、そして7月27日と、短い間で部会を重ねています。次が8月8日ということで、最初に去年の春に行ったワークショップ。それから、保護者説明会。そこで、地域から出た言葉をベースにして、委員の色々な意見とか思いを盛り込んだのが、この印刷してある資料にある項目だと思ってください。

あとは、子どもたちへのアンケートを取りましたので、前回のワークショップでは、それをここに落とし込んでいく作業になっています。制約のある場所というか、位置関係で建設するというものですから、全部が叶うのは、なかなか厳しいかもしれない。そんなつづやきをみながら、少しでもいい物を作って欲しいということで話しを進めてきました。

特に、子どもたちのアンケートを見ると、浜益ならではの、地域と学校が一体になってやってきた教育が子どもたちの思いの中にもしっかりと出ていて、地域の学ぶ場所があればいいとか、地域の方が学校に入れるオープンスペースとか、公的場所が欲しいとか。もっと、自分たちが浜益をPRしたいとか。子どもたちが、しっかりと地域と学校で育っているなっていう事も改めて発見した機会でした。未来に向けて、子どもたちも、学校同士も、一つになろうとしていることをご報告させていただきます。

【渡邊会長】

今、川村部会長からも補足説明ございましたが、この場でお聞きしたいことがあれば、お受けいたします。何かございませんか。

なければ、次に移っていきましょう。

4 協議事項

【渡邊会長】

協議事項に入りたいと思います。継続協議事項であります、「高齢者に優しいまちづくり」に関する意見交換でございます。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

これまで、本年度2回にわたり、「高齢者に優しいまちづくり」を目指し課題として、雪対策、教育・伝承、危険対策について、グループ討議や意見交換を行ってまいりました。その中でいただいた意見を基に、実現可能で持続可能と思われる事業を事務局内で検討し、本日配布しております。お手元の資料については、一番上に事業名、左上に青い欄で課題。右上に黄色い欄で課題解決のために必要なこと（要素）。そして、下に具体的な手法ということで、赤枠のところに記載しております。

まず、はじめに、雪対策について。「浜益冬のあるしん事業」の資料をご覧ください。これまで、話し合われた中で出てきた課題としては、福祉除雪サービスの担い手不足を含め、マンパワーの不足。重機や除雪機があれば負担感が少ない。有料の排雪業者がいればいいのか、雪捨て場の確保、仕事としてお金がもらえるシステムになればというような意見がありました。

それに対して、課題解決のために必要なこと（要素）として、自治会の共助の力や情報力の活用。困ったときのセーフティネットとして動けるモノ。これはあえて、カタカナで書いたんですが、人や機械も含むあらゆるモノです。また、現在、地域で重機を持っていてボランティアで除雪を行っている方々の協力も、今後も是非お願いしたいと考えております。

具体的な手法として、雪捨て可能な場所と不可能な場所の把握。除雪機の貸し出しシステムがあ

ったらどうか。重機でボランティア除雪を行ってくださっている方々への燃料費補助等の手法を考えてみました。

続きまして、教育・伝承の分野です。浜益web情報館「浜益宝庫」事業の資料をご覧ください。

課題としては、文化を伝承するための映像の保存。地元の文化、芸術、地元の歴史。たくさんの自然。地域に開かれた学校等を映像に残し、後世に伝えること。現在の浜益を発信することが、課題と考えました。

課題解決に必要なこと（要素）としては、区民カレンダーを含めた古い写真、古き良き街並みの写真。8mmフィルムやビデオ等の映像を収集、公開。集落の教科書、最新版の公開を行うことで、移住、定住を考える方や、浜益にボランティアで来る方々へ浜益の基礎知識を提供すること。浜益の子どもたちのデジタル教育の発展によって、この事業に関わる機会が生まれるかもしれないということ。更には、廃村危機にある集落の現状を残すことが可能と考えます。

具体的な手法としては、浜益の方の記憶を記録に残し、伝えたいものを誰もが見られるようにして、最新の集落記念誌のようなイメージの物の中に、地場産品や絶景のPR。浜益独自の取り組みの紹介や、児童、生徒が企画した、学校が発信するコーナーもあるといいなと考えました。

危険対策については、危険空き家対策と防災対策の二つの原案をまとめました。

まずは危険空き家対策の「浜リハウス事業」の資料をご覧ください。課題につきましては、危険空き家や歴史的古民家の空き家の増加に伴い、注意喚起と情報共有が必要ということです。

課題解決のために必要なこと（要素）としましては、解体を望んでいてもどうしたらいいかわからないという人もいるため、ニーズに応じた支援が必要だと感じています。また、浜ワークで働き、移住するスタイルが確立されてきていること。移住定住アドバイザーの存在。移住者向けの住宅の不足。古民家は古ければ良いという物では無いですが、その家の歴史も魅力になる。空き家については、借りたいと思わせる見せ方の工夫が必要と考えます。

具体的な手法としては、空き家、古民家、空き地の活用のため、空き家バンクとして機能すること。空き家の維持管理をどうするか。集落支援員の移住定住アドバイザーの関わりがキーポイントになるのではないかと考えました。

続きまして、「防災浜リユック事業」についてです。

この課題については、川下自治会からの要望として防災リュックを全戸配布してはどうかという要望があり、全戸配布するとなれば、基金事業に当てはまるが自己負担をどうするか。非常食等は避難所にある。消費期限のあるものは更新費用の負担が必要になる。避難が難しい人を共助や支所の力で助ける。避難する時や避難した時の防災備品ではどうか。持ち歩きやすいものが良いのではないかと。防災意識を高める目的もあるのではないかとということです。

課題解決のために必要なこと（要素）としては、防災に備える意識や助け合いの意識を高めることが必要。最低限必要な物とは何か。サイズは持ち歩きが便利で両手を塞がない物。貴重品程度も入ると便利かなと考えました。

具体的な手法としては、避難する時に直面する困難は何か。自己負担してでも必要な物とは何かを考えると、最低限必要な物が見えてくるのではないかと。例えばということですが、バッグ自体に反射材が付いていたり、ヘッドライトやラジオ等の防災備品が望まれるのではないかと考えました。

本日はこの原案、4つについて、更に発展させて具現化へ向けた助言やご意見を委員の皆様からいただけたらと思っております。よろしく願いいたします。

【渡邊会長】

それでは、事務局から説明がありましたけれども、それぞれの原案を基に意見や質問等をいただきたいと思いますので、順番に進めていきたいと思います。

まずは、1番目の雪対策、浜益冬のあるしん事業について、事務局でまとめていただいた内容と、付け足す部分があれば、この辺はこうしたらいいんじゃないかというようなご意見がございましたら、ざっくばらんに出してください。

【事務局】

本日出席いただいている市民福祉課保健福祉担当 小島保健師から、常日頃、高齢者の方とコンタクトを取っている保健師さんの目線で直感的な感想やコメント等をいただけると非常にありがたいなと思うんですがいかがでしょうか。

【市民福祉課保健福祉担当 小島保健師】

前回、傍聴させていただいて、この除雪の部分は、非常に高齢者が困っているのを毎シーズン目の当たりにします。冬の問題があるがために浜益で生活するのは困難とか、冬場だけ何とかなればいいのになっという声もよく聞きます。

浜益はなかなか担い手不足という現状はあるんですけども、福祉除雪サービス以外でもうまくいくような、いい案があればいいなとも思って出席させていただきました。

具体的な手法のところ、燃料費補助も上がっていたんですけども、その財源をどうするかというあたりもあるかと思うんですが、やっぱりお金を払ってでもいいから除雪をしてほしいという声も聞きますので、うまく仕組みづくりができるといいなと思って拝見しております。

【渡邊会長】

ありがとうございます。それでは、委員の方から、ご意見等伺いたいと思います。

【佐藤副会長】

私も、除雪を独自でボランティアでやっていますけれども、雪を投げる場所がはっきりすれば、やりやすいというか。結構、自分の土地じゃないのに、そこに押ししてくれとかの要求が結構あるんですよね。それで、雪を押しして怒られたとか。やっぱり、そういったところがはっきりすれば、こっちも手伝ってあげやすいというのはあります。あと、燃料代も自腹なので補助があれば助かります。

【渡邊会長】

重機等を使った場合は、当然燃料代がかかるわけですから、全部無料でという訳にはいかないと考えるんですよね。

だから、そういった仕組みをきちんと検討して作っていかなければならないと思います。今、雪捨て場所の確保については、所管の担当部署等、どこかで担わなければならないと思いますので、それはこれからの課題になると思います。

【徳地委員】

福祉除雪サービスってボランティアでやっているのですか。

【柿岡委員】

私は福祉除雪サービスに従事していますが、お金をもらっています。30分で600円。お金をもらっているからボランティアではないです。

【鳴海委員】

では、もう、そういうサービスを行っているんですよね。除雪業者みたいな感じで。それって何人くらい従事していますか。

【柿岡委員】

今年は、10人くらい。各地区にそれぞれいて、福祉除雪サービスに登録している高齢者を割り当てられて、そこのお宅を除雪する感じです。

【徳地委員】

そのお金はどこから出ているのですか。

【渡邊会長】

それは、福祉除雪サービスだから市で負担してるってことだよ。あとは個人負担も当然あってということで。

【高橋支所長】

それは、条件があって、75歳以上で、自分で除雪できない人とか、体が悪いとかっていう条件があります。

【渡邊会長】

除雪の内容は玄関から道路までの間、間口1メートル幅でしたか。

【柿岡委員】

そうです。けど、きっちり1メートルだけ寄せられないじゃないですか。人としてというか。結局、車の前とかも除雪するんですけど、それで、サービスの条件どおり、きっちり1メートルしかやらない人と、あとはちょっと優しくにする人みたいな感じがあって、そこでクレームが発生したりするみたいなんですよ。

【鳴海委員】

その募集というのは、広報とかで呼びかけてるのですか。

【柿岡委員】

年に1回だけ、回覧が回っています。意外とみんな見逃してしまいます。

【鳴海委員】

知らなかった。

【柿岡委員】

あと、社会福祉協議会から、前の年にこのサービスをやっていた人には、今年もどうですかって

のように声をかけて、だれか知り合いがいたら紹介してみたいなこともあるようです。

【佐藤副会長】

ある方は除雪機を持っていて、軽トラに積んであちこち行ってくれているから、まだ楽な部分もありますよね。

【柿岡委員】

除雪サービスを請け負いながら、個人でもっとしっかり除雪してほしい人のところも、請け負っている方もいます。

【徳地委員】

今、浜ワークに来ている人が、冬に除雪もやりたいと言っているんですが、どう請け負ったらいいのかがわかりません。

ある程度決まりや仕組みができれば、浜ワークとしても派遣し易くはなるんですが、今の状況では難しいと思います。

【柿岡委員】

ビジネス的な感じで、そういう組織として携わっているところは浜益にないので、みんな各々でやっていますね。

【徳地委員】

ビジネス的なことができるのであれば、その仕組みを1箇所作ってくれば、そこに派遣するという手が、無きにしも非ずなんです。

【柿岡委員】

冬は除雪部、夏は草刈り部とか良いと思います。

【阿部委員】

除雪サービスって朝1回行っただけですか。

【柿岡委員】

一応、午前中までで朝6時から11時までの間に1回だけです。昼以降に積もっても、基本お断りしてくださいって感じです。

【川村支援員】

肉体労働ですもんね。除雪機があるわけではないですから。

【徳地委員】

除雪機使ってやっている人もいますよね。

【柿岡委員】

そういうのは自前の除雪機を使われている方です。自前でやるんだったら何を使ってもいいよっという感じです。

【渡邊会長】

作業賃金は1時間いくらでしたか。

【柿岡委員】

30分単位で、30分600円。

【渡邊会長】

大体1軒あたり、30分から1時間。

【柿岡委員】

30分で済ませて欲しいって、毎日言われるんですけど、移動も含めて大体1時間くらいかかります。

【渡邊会長】

時給1,200円だから、まあまあといえば、まあまあですよ。

【柿岡委員】

時給としてはね、そんな悪いアルバイトではないと思います。

【渡邊会長】

1日あたり5軒、6軒くらいですか。

【柿岡委員】

多い人は、8軒、9軒とか請け負っていたりして、その状況で、朝6時から始めても午前中に終わらないので、朝の3時、4時くらいから始めている人もいます。私は本業もあるので3軒が限界ですが、除雪が終わらず、本業に遅刻してしまうこともありました。

【鳴海委員】

雪降ったら4時間くらいかかるときもありますよ。1人で船やって、家の前やっていたら。

【柿岡委員】

道路まで凄く長いアプローチの家の人もいます。

【渡邊会長】

今、浜ワークからの話も出ました。福祉除雪サービスも人手が足りないということも毎年言われています。

【事務局】

そうですね、まず、福祉除雪サービスでどのくらいのニーズがあって、どのくらいまではこなせるけど、そのサービスから漏れている人がこれだけいるとか、その辺の情報を収集しないとイケないと思います。

浜益冬のアんしん事業で、解決を図るのであれば、既存のサービスはありますから、それを活用して、それから漏れる人や、それをもうちょっと広げてやって欲しいというようなことを把握するのに、どれくらいの規模感で設計すればいいのかというのを、整理する必要があるなと思いました。

【川村支援員】

情報提供です。都市部だと、江別市も去年大変雪が多くて、今まで5万弱くらいで排雪を頼んでいた業者さんがもう来年できないと。重機だとか人員だとかが確保できないので、廃業しちゃったんですね。新しい業者さんを見つけて、1年間10回くらい排雪に来てくれる。普段、雪が積もって置いて行かれた雪は、玄関先だけ重機で開けてくれると。これで、65,000円です。だから、それくらいのお金を出しても、やって欲しいっていうニーズがあるのか、無いのか。そのシステムが浜益において展開できるかどうか。重機も人材も。普段生業があり、専門にはできないわけです。

【渡邊会長】

本当にどれだけニーズがあるのかっていう調査自体もしたことないですね。

【柿岡委員】

もし、そういう制度とか、組織ができれば、タクシーの配車センターがあるじゃないですか。そこで、オーダーを受けて、現場の人たちへ情報を流すみたいな。コントロールする人みたいなのがいれば、全体の状況がわかるわけで、どこ、どこが大変そうだから、そっち終わったらそっちの応援に行ってくれないかというような仕組みもできれば凄く良いなって思います。

他の様子がわからないまま、ずっとこう淡々と除雪をやっていると、時々切なくなってきました。

【鳴海委員】

重機を持っている人が、自分の仕事の合間に、自宅の近場を除雪してるっていう。そういうところからお金をもらってとか。でも、お金を貰うからってそれを広げるっていうのはちょっと。仕事疎かにしてっていうのもちょっと。

【佐藤副会長】

雪が多い時は午前中で終わらないで午後からもまたかかるし。朝の3時くらいから始めているけど、午前中で終わらないんですよね。

【渡邊会長】

まあ1回、ニーズ調査みたいなのが必要なかもしれないですね。今年からやるとかじゃなくて。

【事務局】

そうですね。法律的に、特段、免許がいるとか、除雪をやる業務も事業許可がいるとか、そういうのはどうなんですかね。

【佐藤副会長】

自分はそういう許可はもらってないですけど、飛ばすタイプの除雪機なら大丈夫じゃないですか。

【事務局】

重機を動かすのは、まあ、運転免許ですけども。

【高橋支所長】

除雪は建設業とかではないので、免許というのはないと思います。

【事務局】

そういうのありましたね。派遣業でも建設業は駄目だとか。

【徳地委員】

除雪は派遣できるけど、建設業には派遣できないです。

【渡邊会長】

浜ワークでは、派遣はできるけれども、自分のところの事業としてはできないんですね。

【徳地委員】

自分のところでやるとなれば、定款からなにか全部変えなければいけないので。

【渡邊会長】

あくまでも、派遣事業だからね。どうですか、1回ニーズ調査をやってみる必要があるんじゃないですかね。今困っている人が本当にどのくらいいるのか。お金を出してまで、やってもらいたい人がいるのかどうか、タダでやってもらいたいけど、お金出すのはちょっとっていうなら話にならないですけどね。

【柿岡委員】

他の地域でやっているところの、除雪サービスの相場も調べてみるといいかもしれないですね。

【高橋支所長】

排雪までニーズがあるのか、それとも福祉除雪サービスみたいに、家から道路までっていう。それが70歳以上対象とか、自分でできないっていう条件に当てはまらないから、それをお金を払ってでもやってほしいとか、2通りあると思うんですね。

【渡邊会長】

それが毎日なのか、自分でできないときだけ頼みたいとか。

【高橋支所長】

基本は10センチ以上降ったらっていう条件があるので。福祉除雪サービスや、国道とか除雪する基準になっているので、それに合わせて除雪するっていう事ではないでしょうか。

【事務局】

この「冬のアんしん事業」につきまして、今出た意見を踏まえて、ニーズや、今現在の福祉除雪サービスの状況、ニーズ調査をするならアンケート等になりますので、どういうアンケートをするのかっていうことになります。あと料金の相場ですよね。よその地域で、このくらいのお金でこういう除雪サービスをやっていますっていうような情報を整理させていただきたいと思います。

【渡邊会長】

それでは、次の教育・伝承に移っていききたいと思います。

仮称浜益web情報館「浜益宝庫」事業について、自分だったら更にこのように膨らましたらというような意見があればお願いします。

【水崎委員】

課題の下に地域に開かれた学校というのがありますが、まさに本校が目指すところですよ。過日、7月21日に授業の参観日を行ったのですが、面白いって言ったら失礼ですけども、体育の授業をやったら、保護者が4名5名乱入というか参加してくださったんですよ。凄く嬉しいんです。

そこで、本当いいよねっていう事を保護者と話したときに、これは授業参観日じゃなくて、授業参加日だなんて。それを、今後、学園ができれば、特色ある教育で、授業参観ではなく授業参加日とかやると、それこそ地域に広がるかなって思っています。

【徳田委員】

浜益宝庫の部分ですけど、非常に素晴らしいなって思って読んでいました。発信っていうスタンスでもって、浜益をどんどんPRしていくっていう事は、非常に重要だなんていう事を感じました。とにかくPR。発信するっていう事。これからの浜益の未来のために、このキーワードは非常に大事だなんて思っています。

浜益小学校で、先日研究会を行いました。若い先生も来たんですけど、浜益小を知らない、浜松小学校ですかって言われて、いやいや北海道だよって。要するに村時代も知らない若い先生もいたりして。ああそうなんだ、自分たちが新卒の時はもちろん浜益村ってわかっていたんですけど、そういうのも知らない人も出てきたりして、本当に浜益をどんどん発信する。これが非常に大事な事だなんて思いました。今回の研究会のテーマとしては、もちろん先生方が集まって、研鑽を深めるというのもあったんですけど、町おこし、一応PRするというのも今回のテーマでありました。

研究会が終わった後にちょっと、浜益のお店に寄ってもらったりとか、果樹園に寄ってもらったりとか、そういう案内もしたりしました。私がちょっと思っていたのは、特にそのPRの中で、学校の中では無形文化財である、浜益の人間国宝である吉弘教諭ですね。この存在をやっぱ発信すべきだなんて考えていました。まさに浜益の教育職人ですし、我々の中では生きる伝説。レジェンドと呼んでいますけども、若い先生はそれを知らないという事。どんどん発信しようじゃないかということで、開催要項も吉弘先生にひと肌脱いでもらって、おもしろい形にしたりもしたんですけども。浜益区全体の浜益宝庫もそうですし、浜リハウス事業と色々ありますけれども、本当に小学校に落とし込んで縮小版にしても、全部当てはまるなっていう。コンパクト版にしても当てはま

るなって思いました。

例えば、1つ目の浜益宝庫の課題のところの色々な伝統芸能や文化がありますよね。浜益小劇場もありますよね。これ、吉弘先生がすごく絡んでますし、8mmフィルム等の映像収集なんですけれども、小学校の道徳の時間で、吉弘先生ご自身の結婚式を流してしまっていて、何度も見てボロボロになっているので、デジタル化したほうが良いなと。これも当てはまるなと感じました。

【柿岡委員】

区民カレンダーに掲載された古い写真のデジタル化をしたんですよ。全部スキャンする作業は大変でした。私ができるのはせいぜい、エクセルで表を作って、リンクを貼って写真がドンって出てくるような状態にするのが精いっぱいでした。そのデータベースを拡散しようとする、すべてのデータフォルダをそれぞれに分け与えなくてはいけなくて不自由を感じました。その発信とか、共有の部分で、専門的な知識とか技術を持った人が絶対的に必要なんじゃないのかと。お金払ってでもやってもらったほうが間違いがないし、仕事も早いと思うんです。そういうことを継続してやっていたら、結構古い写真とかお預かりすることがあるんだけど、結局、私が自分でデジタルスキャンして、保存するのが精いっぱいなところではあります。そこから先がちよっと考えられない。あと、動画についてもハードルが高く感じます。

【鳴海委員】

小学校、中学校の昔の運動会とか沖揚げ音頭とかの映像が、多分あると思うんだけど、YouTubeとか最近みんな使ってるじゃないですか。小学生とかも。そういうところにアップすれば、みんな見られるから良いと思うんだけど。莫大だから趣味でやるものじゃないけど。

【柿岡委員】

写真や動画を公開するにあたって、写っている人たちの肖像権みたいな問題も話が上がっていて、出たくなかったという人が出てくるかもしれないから、その確認作業もどうすればいいのか。

区民カレンダーに関しては、区民カレンダーで使いますって一回話して、世に出ているものだから、その二次加工的な形で引かかるとは無いような気がするんだけど、当時はそこまで確認は取れていないから、誰かに何か言われたら、その部分も全部やっていかなきゃならないんだろうなと思います。

【鳴海委員】

最近、沖揚げ音頭保存会で沖揚げ音頭の古いやつも見たいねって言ってたんだけど。今とは規模が違うから、見せてあげたいよね。そういうのをYouTubeとか、使ってできればいいのかなって思いました。

【渡邊会長】

多分、昔の8mmとかは、学校や官公庁などにもあるのかな。余分にあるのかもしれない。あと、一番下に廃村の危機にある集落の今を残すとありますが、確かに、限界集落とか、実際に例を出していけば、千代志別とか床丹とか、あと、2軒とか3軒しか無くなって、いずれは移住してくるかもしれないけれども、なくなる危険性がある所はやっぱり、映像や資料を残して。今は、ドローンがあるから、そういったもので残しておけば、一番いいのかなって思います。

【柿岡委員】

皆さん個人、個人で凄い物を隠し持っている方たちはいっぱいいますね。

【佐藤副会長】

なんか、探せばいろいろありそうだよね。古い写真とかもね。

【渡邊会長】

たまたま趣味というか、自分の子どもだけ中心に写っている場合があるから。公平な目で撮った写真がいいですね。

【柿岡委員】

ただ、どこかに大きな窓口が1つあって、そこに情報をどんどんくださいって感じで、やればワンストップで動けるのかなと思います。

【渡邊会長】

やっぱりこれは、何年かかっても是非残しておきたいものだと思うんですよね。記録に残すというのはやっぱり大切だと思います。それを正式にやらなければ、いつかの時点で、もう無くなってしまいうってような。

【鳴海委員】

今の子へ昔の沖揚げ音頭を見せてあげたい。太鼓付きの人数も多いやつ。あれは見せたいわ。

【渡邊会長】

すぐに決められないからっていう事にもならないでしょうし、条件さえ整えば、早くできるに越したことはないと思います。

それでは、そろそろ次に移っていきます。危険対策の空き家対策関係、それとあの防災リュックの関係です。

まず、浜リハウス事業のほうから、質問や意見、こういったふうにしたら良いんじゃないかというような意見があればお願いします。

【川村集落支援員】

古い家で、例えば、50万でいいから買ってくださいますかみたいな話があった時、自分が買うかなって考えたら、買った後、税金は大したことないかもしれないけれど、最後、始末をつけてここから去らなきゃいけない。そんなところまで考えると、家を解体するお金をどうするのか。要するに、解体費用まで考えると、買うというよりは、貸してもらえるとありがたい。月5,000円でも6,000円でも。それで折り合いがつけば、その時期借りられる。それで、勝手に直していいみたいな、そういう条件があれば、入ってきて、何年か住んでみて、そのあと定住を考えようかみたいな人は、きっといるんじゃないかって思うんですね。もう一つは、他市町村の例ですけど、リフォームを自分でやってみたい、しかも一人じゃなくて、複数の人が、家を直して。シェアハウスみたいにしてみたいっていうニーズもあるんじゃないかと思います。技術指導を受けながら、楽しみながらDIYをして、古い家を改造して、そこを展開にして半ば別荘にしていこうかみたいなニーズもあるのではないかという事を考えています。

【柿岡委員】

本当に、浜ワークのことを絡めてなんですけど、受け入れ住宅を探すようになってきて、空き家がすごく多いんです。ここもあるよ、あそこもあるよって。ただ、それがすぐ使えるかどうかもわからなかったり、修繕費がかかったりします。

【鳴海委員】

家の情報を見られるようにしたらいいと思います。不動産会社みたいに。全部、内、外見付きでやって、リフォームしないと住めませんか。そのまま住めますみたいな。

【柿岡委員】

そういう感じで空き家情報も集めて、あと、住みたい人への援助の方法もここで集約して、欲しい情報をそれぞれに渡せるようになればいいなっていうのはあるんですが、ただ、空き家を持っている人とかも、手放したいっていう人も、今すぐに片付けたい人なので。結局タイミングが合わないってマッチングできないパターンが結構あります。それを、ちょっと保留してもらおうような。ちょっと3年間猶予ください、4年間猶予くださいって形で、情報を温存しておくためには、やっぱり、持ち主さんにある程度の保障のような物も必要になって。できれば、これに協力してくれたら、解体費用の何%くらい援助しますよとか。そういうのがあるといいなと思います。

【鳴海委員】

どっちにしてもデータ化するなら画像付きで。詳細欄には大家さんと話がついているとか、ここは大家さんと話がついてないとかって、箇条書きでどんどんやっていったほうが、リフォームしなきゃ住めないとか、リフォームしなくても住めるとか、どんどん作っていったほうが見やすいと思います。

【渡邊会長】

そういう場合、不動産業の資格というのは必要でしょうか。

【事務局】

不動産業だと免許制なので。仲介となると、Aさんの物件をBさんに仲介手数料取って繋ぐっていうのは仲介業になってしまうのでダメだと思います。NPO法人でよく見かけるのは、欲しい人と手放したい人の情報を集めて、共有するような仕組みまでだったらなんとかできそうかなっていうところ。色々な情報を収集して、それを公開する仕組みがあって、Bさんがその物件を買って、移住したいとなった時に、市でも空き家をリフォームして住むっていう助成制度があると思うので、そういう制度を紹介する。それで繋げるっていう方法はあるかなと思います。リフォームして売るまでいったら、それは不動産業なので、それは市ではできないでしょうし、市の方でも費用負担等のコスト等がかかってくるので、そういうところを細かく調べてやる必要はあるかなと思います。確かにちょっと、肌感的に去年くらいからそういう問い合わせが何度も来て、誰か貰ってくれないかとか、市で貰ってくれないかとか。市で使うんだったら無償で寄付したいとか。なかなか市の方で貰っても困ってしまうと言いますが、ちょっとお断りするケースも多いんですけども。

それで、何とか今の話もあてはまるように浜リハウス事業のような仕組みの中で、活用ができれば良いのかなと思っています。

【柿岡委員】

もう、懐さえ許すんだったら、自分で状態のいいところを確保しておきたいんですが、それもできなくて。情報だけを確保して、浜益に来たいゆとりのある方々にお譲りさせていただきたいと思っています。

【鳴海委員】

一番大事ですよ。住むところは。

【柿岡委員】

遊びに来たいけど宿がないとか。別の地域の話ですが、学生インターンという制度があって、中、長期くらいで農家さん等に仕事のお手伝いに来てる人たちがいて、生産者さんが、宿だったり、家だったりを用意してくれるから、宿代がかからないってところがありましたが、そこ以外の地域で、家が狭くて住ませられないって言って、学生インターンが民宿に泊めさせられて、宿代を自分で払っている人たちがいるって聞いて、それはきついなって思いました。そういう時等に使える、まちの活動に使えるような、お家というか施設があったらいいなと思っています。

【渡邊会長】

その他なければ、「防災浜リュック事業」の関係へ移りたいと思います。

事務局からも説明がありましたが、川下自治会から要望が上がってきたのが昨年です。これについて補足しますけれども、基金事業としてということであれば、自治会連合会の秋の総会で、一旦各自治会に話をおろしたうえで、来年4月の総会で、やるやらないを決定しようかということまで話を詰めています。それで、中身ですけれども、今日の地域協議会の中で、リュックの中身だとか、もっとこうしたほうが良いんじゃないかっていう意見を出していただいて、自治会連合会の総会の中で話をしていきたいと思っています。

基金事業ということであれば、個人負担が伴いますので、5,000円も6,000円もの負担と言うわけにいかないとも思います。基金事業は4分の1が自己負担でしたか。

【事務局】

そうですね。4分の3補助で、4分の1を実施主体に負担していただきます。どういう形の個人負担にするのかというのは要検討だと思いますが。

【渡邊会長】

無償でしたら100%配布ということも考えられますけれども、やはり、希望を取ってというようなことになると、これは個人負担が取られますから、どこまで自治会の会員の方々が負担できるのか、川下ではもう既にそういったアンケートも実施されているというようなことをお伺いしていますので、多分、他の自治会でもそういったやり方をするかと思っています。もう既に独自に準備して、防災備品を持っている方もいらっしゃると思いますけれども、同じマークの付いた、もしもの災害の時には、必要最低限の物が入った、皆で同じものを持って避難しましょうといったことで、防災意識の高揚にも繋がるでしょうし、良い事業だと思うんですよね。ですから、自治会としても、是非こういった事業をやりたいなと考えてはいるんですけれども。果たして、全部の自治会さんの賛同を得られるのかどうか、そこら辺が、不安ですけれども。なるべく、賛同を得られるような話には持っていきたいと思っています。

【川村集落支援員】

具体的ではないんですが、自治会から上がった声も、避難するとき私どうするのって不安感があると思うんです。まだこの先になるのかもしれないんですが、防災という観点から言うと、個別の避難計画を立てなさいっていうのがありますが、都市部ではとても難しいですよ。つまり、個人情報保護法などがあつたりして、順番に名簿を作って、介護を受けている人、介護サービスを受けている人。そういう弱者をきちんと避難させるシステムを何とか地域で作れないかという動きが、日本全国であります。保健師さんたちの持っている、あるいは市民福祉担当で持っている情報と自治会が近隣住民として持っている情報がうまくタイアップして、だれを、いつ、どんな形で避難させるのかを、優先順位の高い人から名簿を作っていくような動きが始まりつつある段階だと思います。

【渡邊会長】

それについては、市から要支援者名簿というのが、各自治会に名簿としておりてきています。亡くなられた方や、移転されている方については、毎年更新されて常に自治会で保管しています。自治会ではその名簿が来ても、こういう地域ですから把握はしていますが。

【川村集落支援員】

むしろ、それが、浜益の強みである感じですよ。

【渡邊会長】

一番近場の人何かあったときには車に乗せていくというような取り決めと言いますか、暗黙の了解にはなっています。

【川村集落支援員】

その安心感みたいなのは、もっと盛り上がればいいと思います。

【渡邊会長】

一番心配されるのは冬場です。道路が雪で埋まって、私のところもそうですけれども、夜になったらもう走れない状態ですから。その時には、冬だったら寿命だと思って諦めるしかないのかなって思います。

【事務局】

防災浜リュックっていう名なので、マークの考案者の了解も得なければならないんですが、是非この浜益マークを付けて、蛍光で付いたらカッコいいなと思います。いざという時に、これを持っていると、色々解決できるんだっていうことを、例えば普段の防災訓練の時に使ってもらえたらとか、私はこういう時どうしたらいいんだっていうような情報もそこに入っていますとか。このリュック一つで、いざ焦っているときに、こういうお役立ちグッズが入っていると。色々な備蓄品が詰めてあるというのとは少し毛色が違うかなと思ひ、敢えてコンパクトで、本当に必要で、役に立つ物を詰め合わせるような、そんなリュックが良いんじゃないかなと、事務局から提案させていただいたところですよ。

【渡邊会長】

年数が来たら更新しなければならないのは、高齢者の場合には、そういった部分も難しくなりますので、そういった物を、まだ、日にちはありますので、耐用年数の長い物だけに限って、防災意識の向上に繋がるような浜益のマーク。みんなが、みんなと同じリュックを背負って、一緒に行動しましょうってことは大事な事だと思ひますよ。自分の命は、自分で守らなければいけないんだっていうことだと思ひます。

その他に無ければ、今日の協議はこれで終了します。

今日出された意見等につきましては、事務局で再度整理していただきまして、次の地域協議会へ向けて資料をまとめていただきたいと思います。また、関連する情報などありましたら、その時に合わせて情報提供もよろしくお願ひいたします。

5 その他

それでは、その他に移りたいと思ひます。委員さんから、この場を借りて連絡事項や、話題提供等ございましたら、出していただきたいと思ひます。

【事務局】

6月から7月にかけてのイベントと、今後のイベントについて報告させていただきます。

7月16日と18日の二日間、厚田、浜益特産品販売会を厚田と浜益の地域おこし協力隊が企画し、道の駅石狩「あいろーど厚田」で行ないました。浜益からはそれぞれの果樹園からのサクランボ、厚田からはカットメロン、厚田産米、イチゴの販売を行いました。浜益のサクランボ販売については、食べ比べでそれぞれの果樹園の品種を購入してくださる方や、天気も良かったので、このまま果樹園に行きますという方もいらっしゃったなど、北石狩に足を運んでもらうことができたのかなと感じています。

次に、これからのイベントです。直近の8月6日、今週の土曜日です。浜益みなと祭りが開催されます。全戸配布のチラシでもお知らせしましたが、今年もサマーイベント、花火の打ち上げも予定されております。感染対策をしっかり取って、浜益の夏を満喫していただくとともに、花火への協賛も重ねてお願ひいたします。

【柿岡委員】

浜益観光まちづくり推進協議会で、8月の15日、20日、27日、サンセット横で軽のバンに野菜等を積んで、簡単な産直市みたいなものをやる予定でおりますので、お近くをお通りの際は是非お立ち寄りください。生産者の方の商品の提供も絶賛お待ちしております。

8月は、この3日間で計画していて、その後、去年、一昨年とやらせてもらっていた、きりり横でのアンテナショップに繋げていこうと思ひますのでよろしくお願ひします。

【水崎委員】

本校も7月15日、修学旅行先の函館市において、浜益のPR活動を行いました。集落支援員や浜益観光まちづくり協議会の方々も来ていただいて、200の頒布品を小一時間で配り終わるような盛況でした。ホームページや学校だより、それから、いま・はま通信にも掲載していただきました。本当にありがとうございました。

加えて、9月9日にきらり横の場所において、アンテナショップを行います。本校は、コロナの影響で3年間、職場体験学習を実施できていないことから、販売活動、PR活動もやらせていただいているということで、今年度も9月9日、我々浜マルシェって呼んでいます、協力しながらPRしていきたいと考えています。

6 次回の開催日程について

【渡邊会長】

それでは、次回の開催日について事務局からお願いします。

【事務局】

次回の協議会ですが、今日の協議事項で4項目に対していただいたご意見の詳しい部分を確認ですとか、調査させていただいて、情報を補足して、またそれに対して、意見交換をさせていただければと思っております。開催時期はおおむね9月の上旬を目途に、日程を調整させていただきますので、改めてご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いします。

【渡邊会長】

次回の第4回目の会議につきましては9月の初旬ということで、時間は18時からということで、よろしくお願いいたします。

7 閉 会

【渡邊会長】

それでは、以上をもちまして、第3回目の地域協議会を終了します。お疲れ様でした。

令和4年9月30日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 渡 邊 隆 之